

# 祇園祭の鷹山の復興プロジェクト 1

## 一曳き手の衣裳と扇子のデザイン

### Gion Festival Takayama Float Reconstruction Project 1:

### Design of Fans and Costume for Float Pullers

Yoko Takiguchi 滝口 洋子

Masako Yoshida 吉田 雅子

Masao Kusakabe 日下部雅生

Wataru Kawashima 川嶋 渉

祇園祭には、江戸時代に焼失して復興が必要な山鉦が複数ある。そのうちの一つである大船鉦が数年前に復興し、本学の教員と学生がテーマ演習を通して協力し、裾幕や衣裳のデザイン制作を行った。鷹山も、江戸時代に何度も焼け落ちた。それ以来鷹山は、祇園祭の時期になると御神体のみを町内に飾ってきた。このような状況の中、江戸時代に損壊した鷹山を復興させるプロジェクトが、現在進行している。

京都市立芸術大学は、祇園祭山鉦連合会及び鷹山保存会の御協力の下、鷹山の復興計画に参加している。鷹山の祭礼衣裳、裾幕、小物のデザインを、教員と学生が数年をかけて制作する。本プロジェクトは、テーマ演習を通して学生が鷹山の復興に関わるもので、京都の文化を身近に学び、現代の美術・デザイン・工芸がどのように今日の祭礼に貢献できるかを深く考えるものである。

2017年は本プロジェクトの初年度にあたり、山を曳く人々（曳き手）の衣裳をデザインした。また、2018年度に鷹山から配られる予定の扇子のデザインも行った。この授業に参加したのは3回生・4回生・修士課程大学院生の計37名で、7班に分かれて作業を行った。授業では祭礼や衣裳などの歴史的検証をまず行い、それに基づいてデザインを起こした。歴史的検証の部分は吉田雅子が主体となり、デザイン制作の部分は滝口洋子、日下部雅生、川嶋渉が主体となって指導した。授業の主要構成要素は以下である。

- ・京都文化博物館・京都市歴史資料館等の鷹山の展示の見学
- ・祇園祭・鷹山・衣裳等に関する資料調査
- ・ラフ・デザインの制作
- ・鷹山へのラフ・プレゼンテーション
- ・デザインの修正と展開
- ・日和神楽・山鉦巡行・宵山・還幸祭の見学

・鷹山への正式プレゼンテーションと鷹山による作品の選定

#### (1) 鷹山に関する展示の見学と、祇園祭・鷹山・衣裳等に関する資料調査

4月20日にヨドバシカメラ展示場に赴き、鷹山に先立ち復興された大船鉦の展示を見学した。また、京都文化博物館において、祇園祭に関する展示を見学した。この見学で大方の概要を把握した上で、4月27日、5月11日の授業において、班ごとにテーマを設定して祇園祭・鷹山・衣裳等に関して調べ物を行った。各班の調査の主題は以下である。半纏の特徴（1班）、絵画資料から見る祇園祭山鉦巡行（2班）、祇園祭のインド・ペルシャの絨毯（3班）、鷹山の歴史（4班）、祇園祭の中国・日本の掛物（5班）、祇園祭の歴史（6班）、衣裳に関連する染色技法（7班）。5月18日に調査した内容を各班がプレゼンテーションし、それまで班ごとに調べていた内容を全員で共有した。

#### (2) ラフ・デザインの制作と鷹山へのラフ・プレゼンテーション

6月1日に、鷹山保存会理事長の山田純司氏の会社を訪れ、デザイン制作の条件を伺った。提示された条件は、以下であった。本年度は、曳き手とちりん棒（曳き手を先導する役）の衣裳をデザインしてほしい。衣裳は法被、短パン又は股引、帯、笠から構成されるが、このうち短パン又は股引きは既成品を使用することが多いため、デザインの主体は法被、帯、笠となる。鷹山は紋を有しているのをそれを使用してほしいが、もし希望するのであれば、新たに紋をデザインしてもよい。町名は特定の書体があるので、基本的にはそれを使用してほしい。また、扇子も制作したいので、来年度に使用できる扇子のデザ

インも考えてほしい。

以上の条件に従いながら、6月8日、15日に班ごとにデザインのラフスケッチをとりまとめ、6月22日に第1回目の鷹山へのプレゼンテーションを行った(図1-4)。

### (3) デザインの修正と展開

6月29日、7月6日、13日の授業において、鷹山保存会からの様々な御助言に基づいて、学生はそれぞれのデザインを修正し、さらに磨き上げていった。教員は学生にさまざまな方向から助言を与え、学生の作品の水準が向上するように指導した。

### (4) 日和神楽・山鉦巡行・宵山・還幸祭の見学

祇園祭の時期になったため、祭りの中で今回のデザインに最も関係が深い祭事を見学した。7月16日は日和神楽を見学した。これは各山鉦の囃子方が八坂神社の御旅所に参拝し、祇園囃子を奉納して、明日の巡行の晴天を祈願する行事である。鷹山は現在巡行に参加していないが、巡行に参加する場合、まず日和神楽にみられるような唐櫃を担いだ巡行の形式をとることが見込まれる。そのために日和神楽を実見し、その衣裳等を確認する必要があった。次に、7月17日に先祭の巡行を見学した。そ

して、7月21日に後祭の宵山において町内の飾り物を見学し、祭囃子を聞いた。さらに、7月24日の22:00頃から、八坂神社において還幸祭を見学した。この神秘的な祭事によって、市内に移されていた祭神は八坂神社にもどり、祇園祭の主要な行事の幕が下りた。

### (5) 鷹山への正式プレゼンテーションと鷹山による作品の選定

祭礼の熱がまだ冷めない7月27日、鷹山保存会に正式なプレゼンテーションを行った(図5-9)。鷹山理事会の方々は、プレゼンテーション終了後に集まって各班のデザインを詳細に検討し(図10)、その中から採用作品を選定した。その結果、法被は7班のデザイン案、帯は5班のデザイン案、笠は1班のデザイン案が採用された(図11-13)。さらに、扇子のデザインもいろいろ検討された結果、本来は1案のみを採用する予定であったが、結局5案が採用された(図14)。このうちの1案は、2018年度の鷹山の扇子として用いられることが決定した。また、他の4案は少し修正を加えた上で、翌年度、翌々年度というように、鷹山の扇子として順次制作されることが決まった。さらに、第1回目のラフ・プレゼンテーションにおける2班の法被のデザインと、第2回目の正式プレ

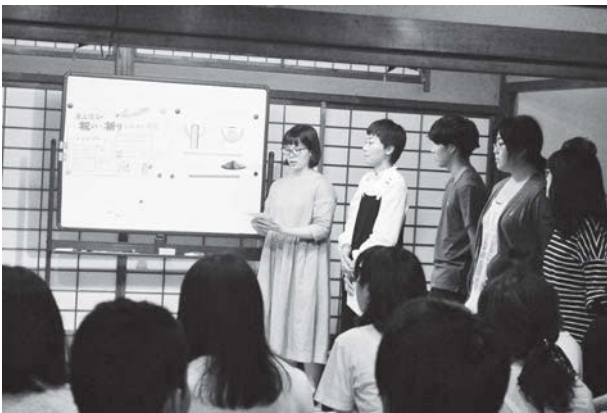


図1



図2



図3



図4



図5

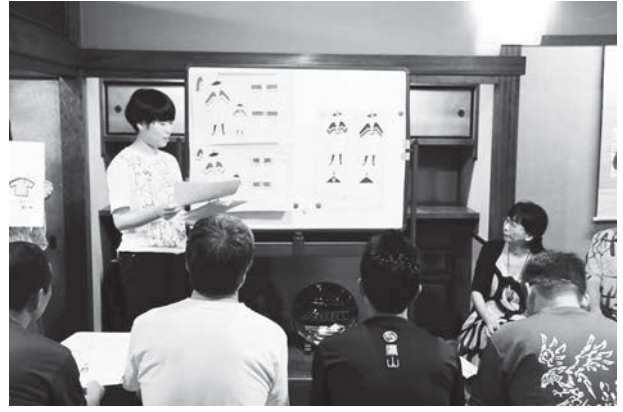


図6



図7



図8



図9



図10

ゼンテーションの扇子デザインの一つを少し修正して、これらを鷹山のTシャツに用いることが決定された。このように、今回のプレゼンテーションからは、期待以上に多くの作品が選定された。

学生はこのプロジェクトに大変積極的に参加し、京都の人々を通して京都の文化と触れあい、自分たちの専門領域を越えてさまざまなアイデアを出し合い、多様なデザインを展開した。このプロジェクトは学生に対する教育効果が高く、さらにその結果、鷹山の人々から喜ばれた。これは京都市立芸術大学の横断教育でしかなしえ

ない研究効果と言えるであろう。

なお、本年度のこのプロジェクトは、以下のメディアで報道された。【テレビ】(1) NHK 京都放送局「鷹山の曳子の衣装と扇子を大学生がデザイン」平成29年7月27日、18:30～(2) KBS 京都放送局「鷹山の曳子の衣装と扇子を大学生がデザイン」平成29年7月27日、17:45～【新聞】(1) 京都新聞(朝刊)「鷹山の曳子の衣装と扇子を大学生がデザイン」平成29年7月28日【インターネット・ニュース】(1) NHKWeb版「鷹山の曳子の衣装と扇子を大学生がデザイン」平成29年7月27日 (2) 烏丸



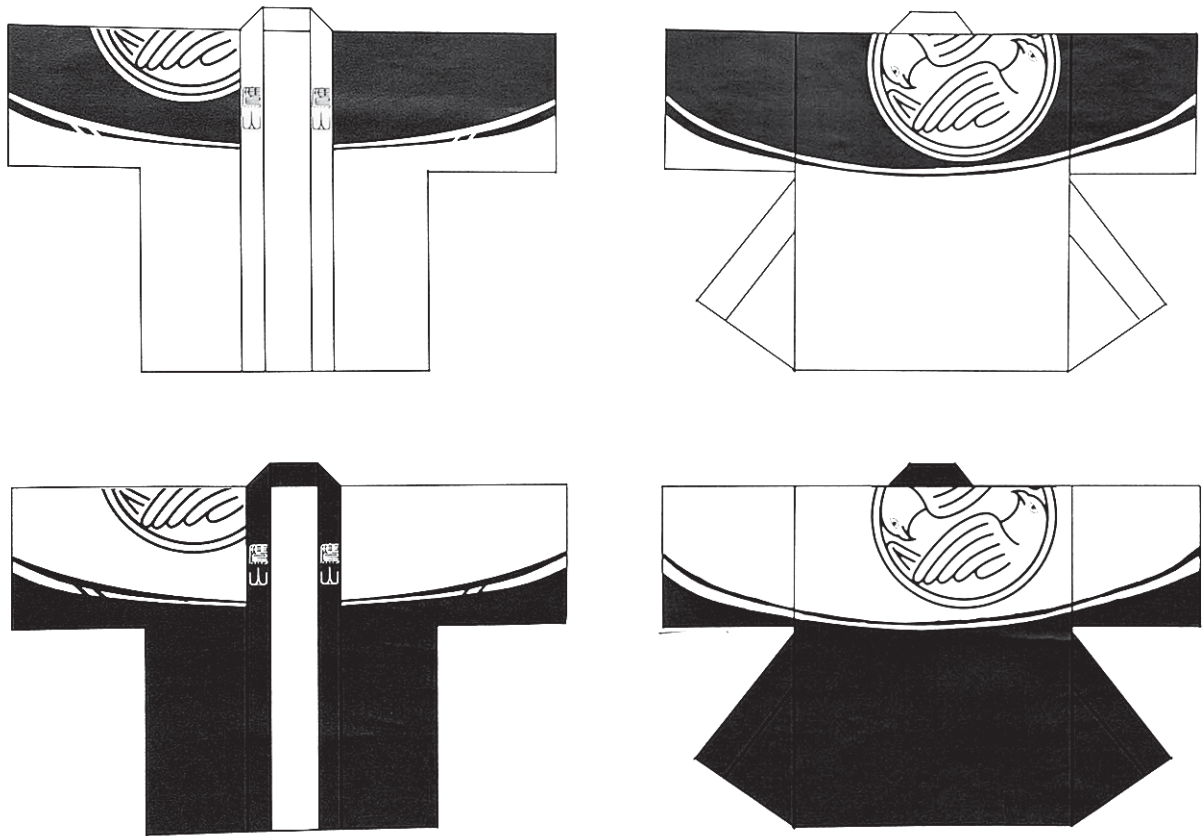


図11 曳き手とちやりん棒の法被

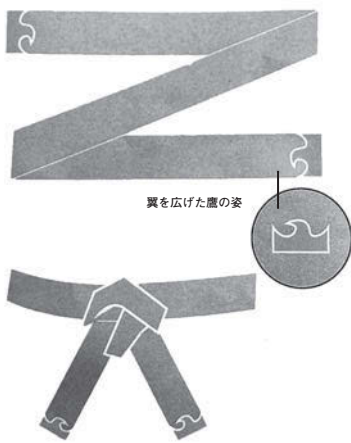


図12 曳き手とちやりん棒の帯

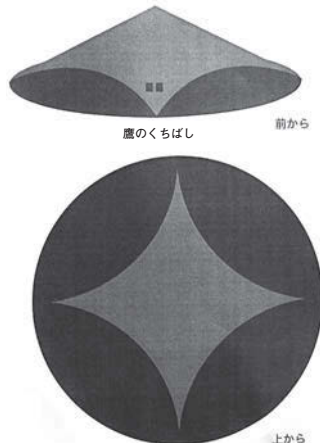


図13 曳き手とちやりん棒の笥

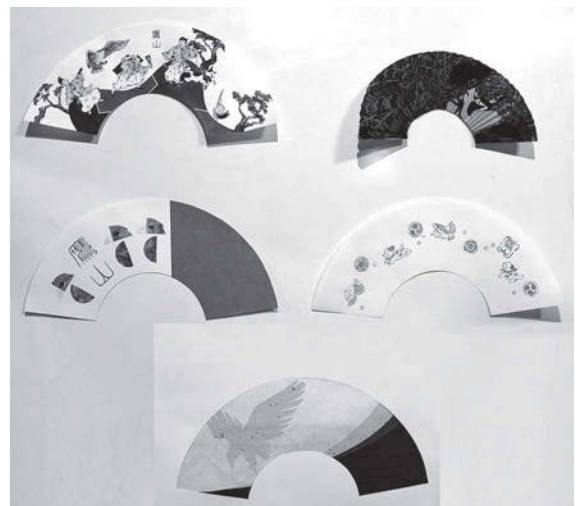


図14 扇子

経済新聞 Web版、「鷹山の曳子の衣装と扇子を大学生がデザイン」平成29年7月27日。

現在、選定されたデザインに基づいてデザインモデルが制作されている。制作されたモデルは、四条花見小路にある祇園祭ギャラリーにおいて2018年初夏に展示される予定である。

なお、2017年度の曳き手の衣装に続いて、次年度は囃子方の衣装をデザイン制作することが計画されている。このように、鷹山の復興が次第に進んでゆくにつれ、京都市立芸術大学はその一翼をさらに担ってゆくことになる。